女學雜誌

第二百十六號目次

社説　何ぞ貧民を救濟せざる

論説　女子簿記學を學ぶの必要（村木經策）○奴隷の制廢せざる可からず（大江卓）

批評　娼妓の味方○時事翁が經濟始末○矢野文雄氏政海退隱の記事○西遊漫記○江湖新聞去らんとする乎

雜録　貧民の慘狀、天下の仁士に告ぐ○櫻井八重子の墓にて（適義堂主人）○女學生に題す（中島俊子）○百尺竿頭一歩○慈善家ホイトチー氏一家を訪ふ○白粉の害（榊俶）○家の手わざ

小説　うき世（三）

寄書　わゆみし道（千秋生）

開書　講義録の爲め一言御禮申上げん○交詢

時事　幾變遷○開化史○目下政海の最大美事○義人の涙○無言の說敎○天使の魔行○今の德育法唯一○個人、國家○廢娼記事○通信

女報　女子師範學校敎諭○王女誕生○地久節○御食初式○淸流女學校○共立女學校○婦人衞生會○女子青年俱樂部○ギユリキ孃○ウインニー、デヴヰス○婦人演說○ソーテル夫人○ヂウエツト孃

"Father, I know that all My life is portioned out for Me."—Waring.

慈善家
ホイトネー氏一家
を訪ふの記

貧民の實景

救濟論
理想佳人紳士の答

大江卓氏演說筆記

六月七日發兌　第二百十六號　一冊定價六錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 216. 7th, JUNE, 1890.

EDITORIAL :—The Relief of the Poor.

LEADING ARTICLES :—Women and short-hand-writing. Modern Slavery must be Abolished.

CRITICAL NOTES :—The Champion of the Prostitutes. The Political Economy of the Editor of the "Jiji" Mr. Yano Fumio's Retiring from the Political World. A Journel.

MISCELLANEOUS :—The Philanthropists and the Poor. At Mrs. Sakurai's Grove. A Word in regard to the "Jogakusei." One More Step to Reach the Goal. Dr. Whitney and his mother. The Harm of Cosmetics. The House wife.

NOVEL :—"Ukiyo."

OPEN LETTERS.

CONTRIBUTED ARTICLES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

第二百十五號目次

社説 地久節○陰陽男女の妙理を講ず

論説 女子さ速記術さに就きて思ひ當りたるとの一二（林茂淳）

批評 森林太郎氏の駁書論○ぼたもち小説：：駄菓子小説○閨秀新誌○女學生○惡文學を禁止せよ○豊太閤裂封冊○科學の原理○物理學現仝の進歩○國文學

雜録 豊田芙雄女子を訪ふ○女性冷待の文學上に於ける影響○改革者の一要素○聖人の恨○謹しみて苦しみる侍らん○共立女學校盗難の詳報○無名氏の寄附○土にて粥を造る事○ホイットニー氏の書簡○家の手わざ○きよめぬ庭

小説 うき世（二）

寄書 民は饑たり妾は醉たり馬は肥たり

開書 交詢

時事 政治○宗教○大學新總理○生徒及罪人の不自由○政談さ學術演説の區域○熱望○女學上反動

廢娼記事 全國廢娼同盟會年會記事

女報

週報

WOMEN IN JAPAN.

(1) *A great deal of suffering has been going on all over Japan owing to the dearness of rice. In Tokyo Dr. Whitney has been one of the chief dispencers of food among the poor people in the Azabu district. About 72 yen's worth of rice and barley has been distributed among 3497 people who daily flocked around his door for the space of 26 days. Onone of the terrible rainy nights during this time, a woman appeared at his door asking for food and she was noticed not to have any thing under the mine (a straw rain coat) which barely covered her person. She had sold all her clothes. The life of Mrs. Whitney, Dr. Whitney's mother will appear in the next No. of the magazine.*

(2) *Through Miss Mary Deyo's (A teacher of Ferris Seminary.) leadership and assistance a band of about a dozen foreign children who call themselves the "Christian Endeavor Society" had a garden party last week for the benefit of the sufferers, at the "Bluff Garden" Yokohama. A sum of 191 yen was realized after all expenses were defrayed and it will go to the relief fund.*

(3) *A party of women has been going around Tokyo making speeches on the woman question. Their behaviour has neither been modest nor lady-like, and we sincerely hope that they may not be confounded with the Christian ladies.*

(4) *The "Charity Dpt." of the W. C. T. U. are arranging for lectures to be given on the 2 succeeding nights, the 5 and the 6 for the benefit of the sufferers in Tokyo.*

(5) *Mrs. Deguchi of the "Sukiyabashi Church" has been collecting notes on the condition of sufferers. The reader will have the benefit of her labor in the next No.*

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第二百十六號　明治二十三年六月七日發兌

社説

何んぞ貧民を救濟せざる

甚はだしき哉貧人の慘狀、將に餓死せんとするもの到る處ろ万を以て數ふ、府の知事は授產金の事に世話しかりしが、貧人は今日の糧なきに悶へたり、園の遊び、舞の樂しみ極まりなしと云へども、同胞幾十万の生命は夫れ今一宵よりも短かからんとす、果して貧人多きか何んぞ笑ふ者の多きや、市には利に奔走する者あり、裏には餓へて死する人衰ろへて只だ一掬の水だに得飮まざる者あり、日々の新聞紙に慘狀を報ずるもの無きにあらず、然れども讀者は先づ政海の雲行に注意して此に掛念すると少し。嗚呼、此の報告にして若し英米の主府にて發行する新聞雜誌に掲載せられたらんには、英米の府民は盡し狂ふ計りに歎げき叫ぶなるべし、然るに我國に於ける貧人の慘狀日々世上に聞ゆるも、之を聞きて泣く人の聲頗ぶる細し、抑そも是れ彼我貧富の懸隔に由りて然る乎、若くは他に原づく所ろありて然る乎、吾人轉たゝ憂悶す。

情けある人よ、諸君何故に之を救ふとに猶豫する。諸君未だ其慘狀を見聞せざる乎、戸外一歩、貧し氣と見ゆるの家に入りて實狀を聞け、世上の困窮を知ると膓に徹する計りなからん。諸君すでに之を知れり、而して尙ほ救濟に狐疑するは何の故ぞ、或る人の云く、救濟の事もと益少し、害反つて多し、貧人之が爲めに懶惰に慣れ、勞せずして人の救ひを待つの慾大に增長す、三日乞食に惠むときは乞食終生改むるとなし、目前の哀れに動きて長年の毒を流すは國家の益にあらず、故に貧人は其貧窮に困して更に奮發するを要す、富めるものが之を助くるの慈善寧しろ害ありと、諸君もと情け薄きにあらず、夫れ情け多きが故に遂に此說を容れ、敢て耳を塞ぎ特更に慘狀を聞かず、忍びて救濟に着手せざる者果して此に因る乎。諸君請ふ聽け、今の貧人は必らずしも自己の惡しきにあらず、彼等妻子あり、何んすれぞ皆な懶怠せんや、或る時は終日勞働して一刻の休みをも爲さゞるものあり、而して妻はマッチの箱を張り、子は使ひを爲し、一族營々骨を折る計りなれども、貧窮常に去らず、加ふるに近日の米價騰貴に際し、物の直段悉とく上り、日雇の途絶し、車の乘り手減じ、入金日に一錢もなくして口に入るゝものなく、身躰衰ろへて働らくと

難く、夫婦親子氣息喘々として只だ死を待つもの多し。此れ果して皆な彼等が過ちの結果ある乎、吾人信ずると能はず。夫れ今の如き制度不完全の世の中に於ては、貧富ますく懸隔して貧しきものいよく窮せざるを得ず、法律は富める者に温たかくして貧しき者に冷やかなり、營業は資本あるものに自由にして手薄の人には至つて面倒なり、凡そ莫大の益ある事業は悉とく富者に奪はれ貧者は唯だ塵を拾ふのみ、此等制度上の不都合は豈に貧人自づから爲す所ろあらんや。又た經濟上の混亂は、喩へば天狗の横行するが如し、彼れ勝手に一人の富を奪ひて一人に與ふ、之が爲めに金融を塞ぎ、事業を倒し、物價の亂高下を來し、以てますく貧人を苦しむるものあり、或る時は紙幣を增發し、或る時は通貨を大減し、又或る時は金利を縮低す、此等人爲意外の取扱によりて經濟上に大怪亂を起し、民の産をして木の葉の大風に吹飛ばさるゝが如くす、此に於て貧人の困窮すると安くんぞ貧人自身の過ちあらんや。又た今の租税は格外に高價なり、租税もし悉とく有益の途に取用せらるゝときは租税の多きは必らずしも損にあらず、然れども政務徒らに重複し、お上の御入用存外に嵩むときに於ては、四民が粒々辛苦の膏血は必らずしも有益の途にのみ用ひらるゝとなし、夫れ今日の勞働者が、届向きに時日を費し、仕事に過分の税を取られ、町村費として意外の入費を課せらるゝは、抑そも果して之が爲めに蒙むる利益の割に合ふべき乎、論者皆な云く、政費過多貧人憫れむべしと、此れ通論なるに似たり、然らば今の貧人は政治上の取立の爲めに損すること少なきにあらず、之が爲めに困窮するは、何んぞ必らずしも貧人自身の罪あらんや。其他今の貧人は其敎育なきが爲に貧窮するものあり、而して其敎育なきは國民として當に敎ゆべきの普通敎育を受けざるに因ると少なしとせず、又た、今の貧人は其の病ひあるが爲めに困しむものあり、而して其病は必らずしも自ら招きたるにあらず、或は遺傳せるものあり、或は國家衛生の不完全なる爲に蒙むりたるものあり、或は勞役取締の行屆かざるに由りて煩らいたるものあり、嗚呼それ此等、社會上、經濟上、政治上、敎育上、衛生上の事よりして貧困するもの何んぞ皆な貧人自身の過ちならんや。若し仔細に貧人の狀態を觀察するときは、彼等は人類としては過分の働らきを爲し、又人間たるに愧ぢざるの心掛を有し、別に妾を置かず放蕩を爲さず、一家よく和樂して非常に勉强し居る也、然るに意外ある影響常に天上

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

より落下し、其智識淺きに乘じて外より勝手放肆のことを仕掛けられ、爲に產を減じ業を失ふと云へども何に由りて然るかを知らず、然かも尙ほ天運と斷念らむるの宗敎心はなく、悶々痛恨、烈怒して餓死するもの極めて多し、あゝ此れ貧人の自業自得ならんや、諸君何んぞ之を愍れまざる。

よし之を彼等が自業自得なりとするも尙ほ愍れまざる可らず、何んとなれば吾人々類は皆な自業自得の罪惡に沈淪し、其罰の苦しみを蒙むりて困苦すると云へども、尙常に他の愍れみを得て漸やく安きを得るものあるがゆへ也。又吾人が今日不自由なく衣食するは何んぞ必らずしも吾人自身の働らきならんや、或は父兄の惠みにより、或は格外の優待に因る也、若し自からの働らきに相應せざる富を得るを以て惡しゝとせば、吾人は先づ自づから今日受る所ろのものを棄てざる可らず、而して今日幾多の堂々たる紳士婦人も亦皆な同樣に辭する所ろなくんばある可らず、あゝ吾等すでに過分の愍れみに衣食し居る也、貧しき人に物を給すると何んぞ常に害のみ多しとせん。況んや吾人は今ま總べての貧人を助けよと云ふに非ず、只だ餓へて死せんとするの人を助けよと云ふ也、其人向來の爲に宜しからずと掛念するは信切なるに似たり、然れども其人もし餓死せば、之に越て其人の不幸はあるまじ。貧民救際の事は一の大議論を要す、然れども餓死せんとするものを救ふに何の故障あらんや、而して怠りて困するものと、病みて餓ゆるものと、致し方なく困するものとを區別するは其方なきにあらず、たゞ憂ふ所ろは助け手のなきとのみ、苟くも助けんとする人あらば如此き方法を案出するには何の造作もなきと也、諸君請ふ奮ひ立てよ。

夫れ慈悲は助けらるゝ者のみの益に非ず、亦助くる人の益なり、今や貧人餓に叫ぶ、之が爲に腸を搾りて救濟に盡力するは盡力する人の德性に大なる益を與ふ、世に困しむものゝ常にあるは「汝ぢ助けよ」と命ずる所ろの神の敎育なり、此聲を聞きて慈悲に働らくものは一段の進步を爲したり、苟くも然らず、人泣けども獨り笑ひ、人餓ゆれども己れ飽食せば、たとへば墓の穴を掘る人夫の歌うたひて葬むるが如し、久しくして慘に慣れ德性全く墜落す、其人富むと云へども實は貧しき也、其人義捐せずと云ふと雖ども實は大ひに奪はれたる也、人間の損失之よりも大ひなるものなし。

然るに此際何某の商人は豪遊を試ろみ、茶番を爲し、大宴會を催ふしたりなど風聞するものあり、甚だしきは「世は苦し

み四界不景氣に泣く、左れど乃公の富は如此し」と誇らんが爲めに、殊更らに放蕩遊樂して黄金を消費するものありと云へり、之れ何たることぞ。凡そ不景氣の時富者の儉約するは願はしきことにあらず、亦た世に貧者多しと聞きて富めるものも生計を低くゝすることは善きことにあらず、蓋し其儉約自省の惡しきにはあらねど、自省儉約して其金を世に義捐することなければ世は之が爲めにます〳〵困窮せんとす、故に吾人は此際徒らに節儉して金を貯はふるの富人ならんよりも、寧ろ其金を平素の如く消費する富人の多からんことを願ふ、何んとなればこれ亦た世上の融通を利し、困窮を救ふの一法便たるべしと信ずるが故也。

然りと云へども之を消費するに殊更に奢りて放蕩するは寧ろ世上の困窮を増すもの也、凡そ貧人の苦しきは其の貧しきが故にのみ存せず、身を富めるものに比較して其不自由なるを恨むの情彼を驅つて一層の苦を感ぜしむるもの也、四民同一に困するときは困しみを忘るゝことあり、但だ一方には朝々暮々宴樂遊興するものありて己れ獨り朝夕の苦しきことを思ふときは其苦殆んど忍び難からんとす、左れば今に於て富人が殊に奢を示すは貧者の苦しみを一層に加はふるものと云ふべし、故に吾人は目下富めるものが節儉して金を貯ふるを惡む、節儉して其の餘財を義捨せんことを熱望する也。

左れば助くる者に其の金の少なきことに掛念する勿れ、金の額少なしと云へども愛情は限りなし、以て貧民が感情の苦を和らげ之をして無限の喜こびを得せしむることを得べし。又其の自からの義捐金は多からずと云へども、眞心より出せるの愛情は滔々たる世上の富者を動かして彼等に其財を散ぜしむるの大說敎となるべし。左れば助けんとするものは其金の少なきことを憂ふるなかれ、只だ其眞心の足らざることを憂ひとせよ、愛なきの十万圓は十万圓にして止む、至誠より出るのレプタ二つは轉々人を動かして無限なる義捐者の心を勵まし、其の義捐の額亦た無限ならんとす、故に其の金の額に於ても亦た至大のものとなる也。

貧人救濟の法凡そ四つあり、貧人なからしむる一也、貧人を敎ゆる二也、貧人の病を看護し之を醫やすこと三也、貧人に物を惠與すること四也、長大の救濟法は第一第二の法を採るの外なし、然れども今や急目前に迫る、三四の法を取るに非ずんば何如ともすること能はず。夫慈善は殊に女性の務め也、姉妹諸君此際冷々寒々とし、ビーナス蛇を食ふの毒態を爲すこと勿れ。

論説

女子簿記學を學ふの必要 （其二）

（客員）村木經策

今外事に就きて之を觀るも、社會取引の頻繁複雜なるに從ひ、男子の專業とする外事の關係、日に繁劇を加ふべきが故、勢男子は外事の中に於て應對奔走周旋の勞を專務とせざる可からず、其の家に居て規式法度を嚴守して、彼我貸借出入の關係を明記し、自己資產の增減を調査し、帳簿上一點の曖昧なく、法規紊れず、秩序亂れず、齊整明確ならしめ、以て一家の財產を保護し、男子をして帳簿上顧慮するの患なく、心を安んじて奔走周旋の實務を執ることを得せしむるは、實に女子周到綿密の性に最も適する所なり、社會事物の進步するに從ひ、分業法も進步して細部に分るゝに至るは、自然の勢にして、理財上外事の中に於て又此の分業法を行はざる可らざるは理勢の然らしむる處なるべし。夫理財上勢ひ奔走周旋と帳簿の調定と分業を爲さゞる可らざる時は、縱令ひ女子周到綿密の性少く男子に劣る所あるも、亦之を女子に委ざる可らず、況や女子は男子に比して一層此の性質の優る所あるに於てをや。されば外事上よりするも女子の簿記學を修めざる可らざるは、理財上今日の必要なるは余輩の言を待ざるべし。

又內政に就きて之を論ぜんに、女子にして柔順ならざれば內政決して治るを得ず、親子決して和睦あるを得ず、家庭の教育決して宜きを得ず、故に讀書以て其淑德を養ひ、博物歷史以て其智力を發し、其他裁縫音樂烹割挿花等を以て柔順の性を助け、一は以て家內の懇和を圖り、一は以て兒女を生育し能く內政を治るを務めしむべきなり。夫れ女子に教育すべきもの、又女子の修業すべきものは、只此のみにして、充分滿足すべきが如くなれども、家事を經濟するに肝要なる簿記學に通ぜざれば、完全無欠と爲すを得ず。女子は既に此學科を修め、此淑德を養ひ、他日良妻賢母となりて、內政の任に當り、養育の責に當りたるときに於て、簿記學を知らざれば實際に不都合を感ずるに至るべし、如何となれば女子は簿記學を知らざれば家事を經濟する能はず、金錢の出納は勿論萬般の經費上規律なく、自ら奢侈の風起て、內事敗るゝに至らん實に女子の此の學に通ずると否とは、內政の治否に關する至大のものなり、女子にして能く簿記學を理會すれば、一家內日々の出納を量り、經費を整ひ、儉約質素を本として、內政を治むるを得べし。何如に淑德あり、何如に柔順なるにもせよ

簿記學を理會せず、一家の經濟を知らざれば、內政の決して治るを得ざるは、固より言ふまでもなきことなり。されば內政上よりするも無論女子は簿記學を修めざるべからず。嗚呼論じ去り說き來れば、理財上、外事內政上、女子の簿記法を要することは其れ此の如し、余輩は望む、世の淑女諸姉は、從來修めたる學科の上に、又簿記學の一科を增され、理財上社會の公益を圖られんことを。

簿記學を修るには、其種類の幾多あるを知らざるべからず、商用簿記、銀行簿記、農業簿記、會社簿記、官用簿記、家計簿記等の區別あり、是皆其職業の異るに從て種々の名稱を附したるものなれども、只取引の種類の異ると帳簿の躰裁同じからざるとの差違あるのみにして、其原理原則に於ては決して異る所を見ず。蓋し商用簿記は簿記學諸般の楷梯にして、簿記學中尤も重要のものなるを以て、先づ商用簿記の原理原則を會得するときは、他の簿記學を修むるに當りては容易に了解し得べし、簿記を學ぶに先づ其普通適意の商用簿記を講究ずるは至便の順序なり。故に世の淑女諸姉先づ商用簿記を修めて簿記學一般の原理原則を會得し、然後家計簿記等を修むれば、他日良妻賢母と爲りて其の本業なる內政を擔任し又外事を分業して良人を助くるに於て、毫も不都合を見ざるべし。

余輩の女子に簿記學を勸るものは、男子と同じく外に出でて奔走周旋の勞事に當らしむる爲にあらずして、只內に在て外事の交渉を明記して良人を助け內政を整理して子女を養育するの道を知らしめんと欲するのみ、世の淑女諸姉よ予輩の微旨の在る所を捨てず、普通の學理に通ずる外、兼て簿記學を修め、經濟の思想に富み、他日一家の主婦となり、子女の良母となりたる時に於て、實際に不都合なからざる樣注意あらんことを余輩切に希望に堪へざるなり。

編者附言、女性もし國家の妻さなる時に於ては、其の第一に當任すべき事の、一は即はち經濟の事なるべし、家政に於ては亦た言ふ迄もなく會計上の愼密を要す、左れば女性內外の何れに盡力する時も簿記法に於ては深く學ぶ所ろなくんある可らざる也、今の女學校に於て之を敎ゆる者の少きは一大欠典にあらずや。

賣奴の弊風再燃せんとするを防ぐべし

大江卓

諸君滿堂の諸君、私は大江卓さ申す者で御坐います。近日廢娼の演說が有るに就て私にも參る樣にさ、廢娼會の諸君から兼て懇望で御坐いました。然るに道德上のとは私の商賣違ひで御坐い升して且私は學問も格別無い者で御坐いますから、(ノウ〳〵)何うも容易に廢娼の事を演壇に登つて、賢明なる聽衆諸君にお咄なする抔さ云とは、私の身に取つてなし難き事なれども能く硏究した上で若しお咄が

出來るならば、お咄しを致さうと云ふ事は、兼て約束を致して有りました。然が島田三郎君が今夜演說をする筈であつたそうですが止み難たき用事が出來て、新潟縣に往かなければならない、就ては何うぞ、私に往て、お咄しを仕て吳れんかと、云ふ事でした、諸君も御承知の通り島田君は有名なる雄辨家で有り、且學術も有り、殊に廢娼の事に就ては是迄に種々演說もせられたる事でありますすみるに其の代りとして私が出てお咄しをすると云ふのは、實に甚だしい不似合な次第(ノウ〳〵)で烏渡團十郎の代りに田舍役者が出たよふなもので御座います且私には道德上に關したるお咄しは出來ません、如何となれば私は宗教家にも非ず、學者にもあらず、道德家を以て自ら任ずる處の者でも有ません。私は元來政治家を以て自ら任ずる者で御坐いまして政治上の事は一切道德の區域內の事ばかりでは御座ひませんで政事と道德とは密着の關係はありまするが又自ら別物で御座いますそれ故に道德上或は學術上に涉るお咄しは些と出來兼ます。然るに折角發起人諸君から御依賴に成り、又嶋田君よりも折角のお咄しも有りました事故餘り固くもいなみ兼まして廢娼の事に就て、聊か政事上より觀察を下した處の、お咄しを致さうと思ひます。(謹聽々々)然れば是れ迄諸先生たちがお咄しに成つた處と或は齟齬するとが有るかも知れない、殊には今晚の廢娼論は、道德上より或は學術上より觀察を下した處の演說で有ると思ふて傍聽にお出なすつた御方々に對しては、私の演說は諸君の望みを達しない譯である(ノウ〳〵)ソコで私は自ら政治界に立つて觀察を下すに今日賣奴の風習が尙ほ存して居りは仕ないか、或は目下再燃の勢を爲して居りは仕まいかと、云ふに就ては、决して其斃なしと云ふべからざるものありイデヤ私はこれより直ちに本論に入らうと思ひます。(謹聽々々)然るに此等の事柄は一々證據を擧げてお咄し申さなければ空論に屬します。其の空論に屬しない樣にするには、事實を探り材料を集てから始めて諸君にお咄しが出來るのでありますが誠に殘念なる事には時日が切迫して居て又其の間に私は、他の用事も仕なければならないので、充分の材料を集むる處ではない。自分で望んで居る處の十分の一の材料をも得るとの出來ないのでありましたソコで私が學術もなく經驗もなく材料も得ない處のお咄しをお聞きに入れるのでありますから、假令ば諸君の淸聽を煩はした處が諸君は所謂蠟を嚙むの感ありて定めて御不滿足の事であらうと甚だ耻ち入つた次第で御坐いますから聊か簡單にお咄しする積りで御坐います、何うぞ暫らくの御辛抱を願ひます。(謹聽々々)

扨て近頃は頻りに此の廢娼論が盛んに行はれて、到る處廢娼の演說が有り、廢娼の雜誌が有り、廢娼の會が有ると云ふとで御坐います。デ此の廢娼の事に就て道德上より見、或は學術上より見たならば、廢娼すべきとか、或は存娼すべきとか、云ふ決論が、出ますでしよふ、然るにそれは私の職分外の事であるから、達てお咄しは致しません。私は只政治上の問題に就て、今日の藝娼妓は何う云ふ有樣に成て居るかと云ふとを考えて見まするに、既に今日の藝娼妓は明治五年十月二日の御布告の精神を失つた者であると云はなければなりません私の演題は賣奴の弊風再燃するを防ぐべしと云ふので有りまして、恰も廢娼存娼と云ふ事に、少しも干係を有たないのであります。故に私の演說は廢娼會の演說では御坐いません私の考では廢娼會の諸君は今一層區域を擴めて我が社會に賣奴の風を一掃する事に御盡力あらん事を望む次第で御坐ります。

扨て淫賣の事に就て、申しましうふなれば凡て娼妓であれ、又は其の他の者であれ、淫賣と云ふ者は多分道德に背いたとで有りませう。併し是は前申す通り私の演說の區域外の事に涉りますから、其れを省きます、而して是れ迄演說會があり、又討論會がありまして其の有樣を聞きまするに、總て學術演說であり、或は道德上の演說の樣に承つて居る。此の廢娼の事に就て、政談演說會を開いたのは、今夜が始めてゞ有ります、私は學術上道德上よりお咄しが出來ませんから私の需めに因て發起人諸君が此會の性質を變じたので御坐います。私は此の廢娼の事に於て演說を致すは、假しや政治上より觀察を下したにもせよ、如何なる譯を以て此の演說を致すかと、先づ假りに問ひを設けて見ますれば、此の廢娼の觀念が吾が心上に浮かんだのは明治五年の然も八月の事で御座います。明治五年九月に私は政府へ廢娼に就ての建白をした。其の建白をしたのは、何う云ふ譯で有るかと、云ふ事からお咄しをせんけりやア解かりません。明治五年六月に當つて、南亞米利加の白晳國(ペリユー)の「マルヤルーズ」と云ふ船が始めて橫濱に參りました。此の船は何う云ふ性質の船で有るかと云ふに、支那の國の人民二百三十餘名を積んで「ペリユー」と云ふ處に往く船で有る。其の二百三十餘人の者は、何う云ふ性質の人達で有るかと、船長に聞けば「是は船客で有る」と申しました恰も私は其の時分神奈川縣に職を奉じて居りましたが、此の「マルヤルーズ」と云ふ船に乘て居る二百三十餘人の中の一人なる「アタク」と云ふ男が、其の船より飛び出し、海を涉つて其の近邊に繫ないで有る處の英吉利の軍艦に飛び附いて、命乞ひを致しまし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

たのであります。其の時分に軍艦の士官がソレを助けて「汝は何故に汝の船を出で吾が軍艦に飛び附いたか」と其の者を糾して見ると彼れの曰く「吾々は支那を出る時分に船中に於て勞働をすれば汝の心に飽く丈けの給金を與へると云ふ事を或る外國人に言はれて乃ち其の船に乘つたが、船に乘るや否や船の艙中に推し込まれ二百三十餘名の者共は少しも自由の權を得ず何處へ往くか大洋中に乘り出した事で有る。其の大洋中に於ては食物も充分に貰らう事は出來ず又或は飲水など求むる時は、船長より鞭撻せられ或は髮を剪られ打擲されると云ふ有樣で迚も此の船中に居つては命が無い。ソレよりも寧ろ海に投じて死んだ方が苦痛が少ないで有らうと海中に飛び込んだ譯で有る、吾々同船者は皆左樣な苦痛を受けて居る者である哀れ船長は此の吾々の遁れ難きの苦痛を助けて吳れよ」と「アイロンヂユーク」と云ふ軍艦の艦長に取り縋つて申し入れたので、其の「アイロンヂユーク」の艦長より其人を助けて神奈川縣廳に送り越したので有る。デ其人を糾して見ると表面は船客と云ふが其の實は賣奴で有ります。是れより南亞米利加の「ペリユー」に連れて往て八年の間鑛山の事業に役使すると云ふ約定より成立つて居る賣奴の性質を帶びた者で有る。然るに此の事に就ては世間の議論が中々八釜敷成つて、「此の事は我が日本政府の干涉すべからざる事で有る若し此事を日本政府に於て干涉するならば大に國の害を惹起すである、箇樣な事は知らん振りをして船の出帆を許す方が宜しい」と云ふのは啻に世間の議論のみならず我が政府の中にも餘程此の議論が有りました。或は又各國の領事公使の中にも喋々と論じて日本政府の干涉すべき者で無いと主張した人がありました。然るに當時の外務卿副嶋種臣君が「此の事は我が日本政府の權利内に在つて何うしても法律の下に保護しなければならん處の者で有る、此の橫濱の港に於て此の事の起つた以上は我が政府の法律として是を糾し此の人民に充分の保護を與へなければならん」と云ふ議論をせられ、恰も其の時分各地方の裁判權が地方長官の手を離れ地方裁判所の設立になる時でありましたが此の一條は爭外國に關係なるし殊に司法省中に於ては此一條に日本政府の干涉すべからざると云ふ議論の有る際で有るから……と云つて一に是を裁判所に任じて裁判をすれば或は日本國法を潰す樣な事のあつてはならんから、此のヿは神奈川裁判所に委せず特別を以て大江卓に命じて裁判をさする樣にと政府より特命を受けて私が裁判に取り掛りました。然るに其の事たる海中に於て爲したるヿにして獨り日本の法律のみを以て處すべきヿでなく、（私は道德上には甚だ疎い者で有るけれども）以て斯くの如くならずんば有るべからず、條理に基いて以て斯樣にせんければならんと云ふ精神を以て外國の賣奴に……實奴に就ての法律を參酌して其の法律案を調べ是を裁判したのである。其の裁判の時は各國領事公使抔も傍聽に參られ殊に法律家は私の裁判案に向つて喋々と議論をせられ、其の上に我が政府を批難して是れは越權の處分で有ると云ふて議論をせられた。此の始末は「マルヤルーズ船」裁判畧記と云ふ書物が有りますから其の書物を御覧の方は御承知で有りませう。其の際に尤も強い反對說を出した者はマルヤルーズ船長の代言人ヂツキンスと云ふ人の說で有るそれは何かと云ふに、日本には賣奴が幾らもある而して其の約束たるや又斯くの如きの寬かなる約束では無い長年（ながねん）の人身賣買をして居る、即ち娼妓で有る。娼妓は實に甚しき不道德なる約定よりなり立ち且つ其の受くる處は最も嚴酷なる待遇で有る是れをしも賣奴と見做さずして公許し居る以上は此の支那人の如き者は、其の働いた丈けの賃銀を取るので有る、既に其の賃銀を與ふる以上は格別甚しい殘酷な譯は無いから、是れは充分許すべき者である」と云ふ此の說が最も力有る反對說で御座いました。所が私の考へには、我が主權の及ぶ所の國内に居る者、假しや殘酷な妓樓の主が有り買主が有つて、是をして殘酷の取扱をなさんと致すにもせよ、又法律の保護を以て殘酷にさせない樣の方法も有る。然るに船に乘つて居る者は、一朝橫濱を解纜した上は、既に日本の法律が是れに向ふて仁を與へんとしてもが、其人民に權利を與へんとても何樣及ばん事である。又我が國内に妓樓があればとて、其の性質は全く異る者で有るから、何も外邦に出帆する船に對しては干係せぬも可なりと云ふ考へを以て、遂に其の賣奴二百三十余名と云ふ者を船長の手より放して、是を支那に歸した事が有りました。

是れが濟んでそれから私が熟ら考へて見るに、如何にも我が國内の娼妓の如きは、實に殘酷な者である人民天賦の權は全く失つて仕舞ふて實に哀れな者である。又啻に娼妓のみならず、藝妓の害が有る、藝妓も娼妓と矢張り同じ樣に本年二十五歲迄身を賣つて一向自分の好きな處に往く事は出來ず自分の身を自分で自由に動す事も出來ざる所の實に哀れな者である。又其外に年季奉公人と唱へて小僧の時から男でも女でも他の家に身を賣られ或は人足で有つても凡て此の年季證文を入れて身を托して居る人と云ふ者は實に賣奴に異らん所の者である。斯くの如き者が今日存して居つては所謂文明の世の中に成らうと云ふ日本國の大瑕瑾で有る。

八

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

又我々同胞として此の哀むべき者を傍觀するは情の忍びん所で有ると云ふ考より(喝采)此の年季奉公人の解放と云ふ事をするの時期が既に到來したので有るから此の時期を外さずして解放の念を發せられん事を希望すると云ふ建白を致したるに(大喝采)私の誠に幼稚い考を捨てずして政府は承納せられ早速に藝娼妓若しくは年季奉公人解放の令を同年十月二日を以て發布せられたは兼て諸君が御承知で御座いませう。

此の十月二日の御布告に依つて考へて見ますると實に我が皇國内に於て人身を束縛する事は何うしても出來ない人民は皆な自由の權利を與へなければならないと云ふ精神を充分に含んで居る樣に思ふ。諸君の中には右の御布告を御記臆に成つて居る御方も有りませうが念の爲め明治五年十月二日太政官第二百九十五條の御布告を朗讀致します。

一人身を賣買致し又は年期を限り其主人の存意に任せ虐使致し候は人倫に背き有まじき事に付古來制禁の處從來年期奉公等種々の名目を以て奉公住爲致其實賣買同樣の所業に至り以ての外の事に付自今可爲嚴禁事、

一農工商の諸業習熟の爲め弟子奉公爲致候儀は勝手に候得共年限滿七年に過く可らざる事、

但双方和談を以て更に期を延すは勝手たるべき事、

一平常の奉公人は一ヶ年宛たるべし尤も奉公取續候者は證文可相改事、

一娼妓藝妓等年期奉公人一切解放可致右に付ての貸借訴訟總て不取上候事、

右の通り被定候條屹度可相守事

是れが太政官の御布告で有ります、又司法省より同年同月九日の第二十二號の布達が有ります只今其の本文を朗讀致しませう。

本月二日太政官第二百九十五號に而被仰出候次第に付左の件々可相心得事

一人身を賣買するは古來の制禁の處年期奉公等種々の名目を以て其實賣買同樣の所業に至るに付娼妓藝妓等雇入の資本金は贓金と看做す故に右より苦情を唱ふる者は取糺の上其の金の全額を可取上事

一同上娼妓藝妓は人身の權利を失ふ者にて牛馬に異らず人より牛馬に物の返辨を求むるの理なし故に從來同上の娼妓藝妓へ貸す所の金銀幷に賣掛滯金等一切債るべからざる事但本月二日以來の分は此の限りにあらず

一人の子女を金談上より養女の名目になし娼妓藝妓の所業を爲さしむる者は其實際上即ち人身賣買に付從前今後可及嚴重之處置事

是れが司法省より出た所の牛馬に齊しき者を救ふと云ふの御布告で御座ります。

此の精神を能く翫味して見ますると、決して人の子を賣受け或は金を遣つて預つて置いてられを以て藝妓娼妓の商賣をさせる抔は法律の上に於ては許さない事と私は思ひます(喝采)當時丁度私は此の建白を致し、斯の如き政府の御布告が出でますが、其の任かせられた時の處分と云ふ者は只今其の時分に私が草稿をした物が幸ひ殘つて居る。其精神に依て考へて見ると前申す通り決して人身の賣買に類する樣な事は許さんは申すに及ばず、以來は斯くの如き弊風をして我が日本中に少しでも增さする方向を取つては成らんと云ふの考であつたと思ふ。然るに追々新開地が出來て或は藝妓の無き處へも藝妓が出來或は岐阜縣の如きは女郎屋も無かつた所に女郎屋を拵へ、以て地方の風儀を亂すとか或は亂さんとか云ふ如き、(大喝采)議論を發生せしむるに至りました。斯くの如き事は假しや道德には背かないにもせよ、既に斯の如き布告有るにも拘はらず、此の牛馬に齊しき者を增させると云ふ地方廳官の氣が知れない(ヒヤヽヽ大喝采)先づ此の御布告に依つて考ふる時は、箇樣な御役人は取りも直さず、御布告の罪人と云ふ事は斷定が出來ると思ふ。(ヒヤヽヽ大喝采)

是れより前に申した賣奴裁判の事に立戻つて御咄しを致します。(謹聽)其頃マルヤルーズ船長は船を棄てゝ本國に逃去つて仕舞つたに依り日本國からは支那に此事を申して遣ると、支那より上海道台陳福勳と云ふ人が使節となつて參られた。(御維新になつて支那より使節の來たのは是れが始めてゞす)即ち此方では其の人に支那人を悉く渡して歸して仕舞つた所が船長は其の際に脫走して吾が本國に此の始末を訴へた。ソーすると「ペリュー」の本國よりは特派全權公使が參つて何うも日本の處置は萬國公法に背いて居る。日本は他の國の法律の權利を害して居ると云ふ事の議論が起つた。其の時我が政府は此一條は仁義の道に基いたので少しも他國の權利を妨げた者では無い支那人の權利を保護すると同時に「ペリュー」國の船長にも權利の保護を與へて有る決して偏頗の處置を仕たので無いと答辨したが中々全權公使が聽かない。斯くては何時迄論じて見ても其の果を得る事は出來ぬから是れは彼の歐羅巴に行はれたる「アルビテレーション」即ち中裁の法を以て此事を極め樣と云ふ事を全權公使に談判した所が然ればと云ふので其の事に決しました。其際恰度魯西亞皇帝陛下に其の事情を述べて裁判を仰がうと云ふ事に一定致し、それより兩國の全權公使が魯西亞に參つたのであります。ソーして裁判を受けた所が日本政府に於て施したる處分は仁義道德に基きたるものにて聊かも間然する處が無いと云ふの裁判で御座いました(大喝采)。此の例が萬國公法の一例と成つて今日有るのは聊か我が日本國の榮譽と爲るに足るだらうと思ひます。(ヒヤヽヽ)(未完)

批評

娼妓の味方、一名存娼論

廢娼論は伏魔將軍の如し、其の勝を奏する迄には樣々の悪鬼を世に追出さゞるを得ず、之が爲に見苦しき文章演說の世に現はるゝは致し方なきの事と云ふべき歟。此頃名古屋耐成社より發兌したる題名の書は。第一、有情的の動物。第二、情慾制しがたし。第三、兩性の關係。第四、娼妓の起原より初め、娼妓營業は不正か、風俗を亂すかと疑問し、遂に存娼の利を說く所ろ、文字猥褻にして讀むに堪へず、內務大臣は何故に此の如き印書を容認するかかへすがへすも奇怪至極。

時事翁が經濟始末

相變らず面白しと云ふの外なし、ビクトル、ユーゴ曰くあやまる者の頭を擲ぐるは先に之に反對したるものゝみ爲すべし、初めに追從して后ちに其窮するを叩くは勇士の事にあらずと、彼の整理公債發布の時、起業熱隆盛の時、頌德表呈上の時、翁が說法は果して何如なりけん、世人は當時に於て先づ經濟預言を聞かんとを欲す、愛兒すでに死せしとき其始末書を讀むとは轉たゝ悲しみに堪へぬとにてあるべし。

矢野文雄氏政海退隱の記事

國民新聞記して云はく、矢野文雄君暫らく政海を退隱すと、余君嘗て談ずらく、吾黨從來の失敗はアセりたるが爲め也、余れ英國より歸朝するや心竊かに矢つて云く、之より德を積まん、力を積まん、學を積まん、リサーブ（蓄積）の一字を万事の要骨とせんと、余が近年の覺悟之のみと。此に於てか屯田策を講じ、持重耐忍の德を講じ、宛から政海に老先生を得たる心地せり、然るに去年來條約改正の事起るに際し君再たび勃然奮立したるが不幸、美事に失敗したり、今や君が英氣を養ふと云ふ事實に當を得たりと云ふべし、盖し論客にして小說を作りしは君を以て創めとす志士にして堂々洋行したるも君よりして名あり、君は大率ね一着先歩の見あるに似たり、此度びの退隱も何にとあく床しく賴母しく感ぜられ坐ろに其風采を懷ふと云ふ。

西遊漫記

退隱樂文の第一章として西遊漫記出づ、政談あり、獵記あり、花信あり、龍溪居士得意の配濟にして、好く小說の躰を具す、生氣あしと雖とも溫厚强固なる所ろ尤も味ふべき者也。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

江湖新聞去らんとする乎

江湖新聞社員解散すと風聞す、吾人之を悲しまず、只だ三宅雄二郎君が新聞紙社界より退ぞかれんとは如何にも殘念なり、都風君を腐らする能はず、大學風君を器にする能はず、新聞屋風君を俗するあたはず、君の如き偉男兒を失ふは今に於て何よりも遺憾なり。

雜録

貧民の慘狀、天下の仁士に告ぐ。

矢島楫、出口せい兩女史の談話　雲峯生

屋は朽ちて雨露を防がず、衣は破れて寒暑を避けず、食ふに食なく晝夜饑になくの窮民夫れ幾許ぞや、殊に人家稠密せる都府の細民に至つては其困窮の狀實に云ふべからざるもの多かり、余輩は斯る人民に向つて切に同情を表す、されど身もと一介の書生のみ其救助の策に至つては如何ともする能はず、只貧民に代つて其窮乏の狀を陳述し天下の仁士に訴ふる所あらんとす、仁者若し多少の救恤を施こし玉ふあらば余輩の言の水泡とならぬのみか、幾多の細民感謝の涙に咽ばん、等しく是蜻蛉洲裏の民なり、共に王澤に霑ふの人なり、而して衣なきに苦しみ食なきに泣く、之を傍らに見、手を收めて閑々たるは實に人たるものゝ爲すまじき所ならん、思ふに世の富者貴人にして未だ其慘憺たる狀態を明知し玉はざるもの多からん、余輩は今少しく聞知せる所あり、書して左に掲ぐ、心ある者は乞ふ輕々看過し玉ふ勿れ。

近來米價愈貴く、窮民の欠乏愈切なり、從つて慈善施與の計を爲すもの多く出づ、余輩は之を見て大ひに喜ぶ、只益々奮つて美擧に力を致されんを望むのみ、余輩は貧民の狀、慈善の策等につき問ふ所あらんとて一日、

矢嶋梶子女史

を櫻井女學校に訪ひぬ、女史は元の婦人矯風會頭にして常に慈善の事に熱心力を盡さるゝは夙に世人の知る所あり、女史の云はるゝ樣力の限り貧民の救助に力を致さんと思ふ、若し策の宜しきものあらば乞ふ述べよと、余は未だ其策とて考へず、只狀態を紙上に述て廣く天下慈善者の注意を促し、以て助け得べくんば御身等の美擧を助けたしと答へぬ、次で

今日の救助策如何

と問ひぬ、女史答へ玉はく未だ救助とて思ふ樣に行き屆かず

是より倘其方法を案じて爲す所あらんとす、此に甚だ賀すべき事は麴町の志士古田安二郎君、河内全節君、及其他の資産家相計て麴町區内の貧民を救濟せんとし玉ふ美擧あり、是等の諸君は兼て斯る事もやあると思ひ量り玉ひし故、種々蓄積の方法を案じ居玉ひしとぞ、諸君が今回同盟して一の慈善會を起し

　米穀三千石

を買ひ入れ、貧民を二種に分ち、少しく活計の立ち易き者よは通常米價を半額にして賣與し、全く窮乏し活計の策、出るなきの徒には一人分一日三合の割合を以て施與する由聞き及びぬ、右の慈善會の規則成れり斯の方法にては如何と過日有志者が相談せられ玉ひき、是甚だ宜しと答へ置きぬ、何れ規則の印刷成らば送附すべし云々。女史亦曰く貧民の狀態を明かにせん爲め、數寄屋橋教會員、

　出口せい子女史

に托して諸所の貧家を調査せしむ、數日來の調査せし所數十戸何れも慘狀を極めぬはなし云々。夫れより出口氏が調査せし所ありと云ふを少しく話し呉れぬ、次に余は話柄を變て暫時他の事を談話し、其懇篤に話し玉ひしを謝し、暇を告げて去りぬ。夫れより出口女史を訪ひ、近日調査し玉ひし所につき少し承りたしと云ひぬ、女史云はるゝ樣未だ調査せし所を淸記せずと、余は只御身の目撃し玉ひし所の一二を聞くを得べきやと云ひぬ、そはいと易き事あり未だ廣く視察せしにはあらねど、最も深く感じたる所の一二を語らん、

　いと憐れと覺えしは藤井金次郎

とて麴町に住む小兒あり、今月にていまだ十五歳を越ゆる事三月ばかりありとぞ、兼て宮内省とやらに小使を勤め、昨年までは一月に三圓五十錢の給料なりけり、其の志の忠實あるを役所にて認めけん、今年より月俸四圓五十錢とはなりぬ、其給料のみにて一人の病める母を養ふ由、妾が見舞ひしときは廿四日にて給料の渡る日なりと云へり、其の日の朝金次郎が家を立いづるとき母の枕頭にて云ふ樣、朝飼炊て進ぜまく欲すれど如何せん手には一錢五厘を餘すのみ、後刻給料を得ば直に歸つて飯を炊てまいらすべし、これにて麵麥を買ひ暫し饑を凌ぎたまへとて、やがて出仕せしとぞ、妾の見舞ひし時其金倘枕頭に依然としてありき、何故物を買はずやと云へば「愛する子が朝飼も食せず出仕せしを見てなどて妾が食するを得べき」と涙ながらに答へぬ、因に云ふ昨年一月より金次郎の母は病床に臥し一度はすこし快方に向ひしもまた病勢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

強くなり、今は身躰の用も便ずる能はず、悉く金次郎が手にて爲すといふ、金次郎は養ひ子なる由、而して其孝心は眞の母に事るより深し、常に孜々怠るなく母を養ふと云ふ、然れども上に云へる如く些少の給料を得るのみなれば衣服杯は勿論調ふる能はず、洗濯も意に任せず、家内は汚物堆をなし、臭氣滿つ、憐れむべきの甚だしき者とは是等をや云ふべからん云々と涙ながらに語り玉ひぬ、次で亦云ひ玉はく、

四谷信濃町に山本某となん云へるものあり、夫婦力を協せて五子を養ふ、夫は荷車を引て少しの賃を得たり、近來雨天にて其業も營むを得ず、一家七口坐して饑に苦しむのみ、到底詮方もなしとて一日妻なる者潸然として云ふ樣、長せる三子は如何ともして生き長らへん、我等夫妻微せば幼き二兒は育つまじ、空しく餓死せしめんは便なし、如かず今我等の手にかけて殺さんには、妾今奮つて一兒を殺さん御身乞ふ一兒を殺せ、而して後我等兩人亦死なんと、夫之を聞きて答ふらく、是人の爲すまじき所、我遂に忍びず、斯る恐ろしき事は再び云ふ勿れと、且說き且慰めたりとぞ、妾の見舞ひし時は一家族憔悴して久しく食せざるが如く見えぬ、五子夫妻を擁して云ひぬ、隣家にては今倘一日に三度食す、我等三度食する能はずとも可なり、されど一日一度は食したし、父母夫れ如何と、夫妻之を聞き涙を呑むで默然たりき、此處に於て妾等持てるものを與へ懇ろに慰めて立歸りぬ。

鮫が橋とし云へは貧民の巣窟なる事誰も知る、況てや斯る時に於ては窮民益窮するは無理ならぬ事ぞかし、妾が見舞ひしもの丶内に遠藤某なるものありけり、妾が其家に入りし時床板(疊杯は勿論なく古席破れて板あらはる)の上に幼兒の眠り居ぬ、其身にコモを纏ひありきまだ生くるやはた死にたるやと問へば今眠りに就きぬと答へり、老母一人あり顏色の黑きは塵垢の皮膚に滿てるなり兩眼タヽれて明かに見ず、幾十日洗はぬにや、身躰の汚穢甚だし、此老母曰く妾もと不幸の身、加ふるに一女の不幸なるあり、嘗て其家に嫁せしむ、女の夫なるものよからぬ人故、其處に居らしむるに忍びず、我家に引取りぬ、嘗て一子あり夫の手に殘すは無慘と思ひ、女と共に連れ來らしめぬ、彼のコモの內に眠れるは即ち是なり、而して今日は共に饑に迫る、妾の悲み何物か之に過ぎん云々と、妾亦持てるものを施し種々慰め、亦他日見舞ふべき

を約して去りぬ。其後數日を經て見舞ひしに、老母は心地よげに起き居て曰く、御恩に依て身も快くなりぬ眼病も亦癒ゆ可し醫を乞ふにも及ばずと云へり云々。
以上出口女史の語り玉ひし內の主もなるものなり、其他夫死して病に臥す寡婦あり、親に別れて路頭に迷ふ孤兒あり、身病ひにかゝらざるも爲す事なく手を空しくして窮するあり、爲す事あるも久しく食に乏しかり故を以て身躰衰耗亦働く能はざるあり、幸にして働き得るも終日勞して得る所は僅に數錢のみ一家族を給するに足るべくもあらず、遂に亦饑ゆるの外なし、誠に憐れむべきもの多しとぞ。
尙深く調査を遂げ亦調査せし所を聞き得て報ぜん、思ふに窮民は日本全土に滿ち渡るらん、啻に東京府下のみならざるべし、然れど地方の窮民と東京府下の窮民とは其窮狀同じからず故に先づ東京府下の貧民を救はん事こそ誠に願はしけれ、余輩は今府下の窮民に代つて、天下の仁士に告ぐ、貧民の慘狀夫れ此に云へるが如し、乞ふ應分の救助を施し玉はん事を。
義捐せんとする人の爲に吾社は、何如なる取次を爲すべし

櫻井八重子の墓にて

適義堂主人

（一）。うき世の風の情なく
さそへるやどの櫻ばな
ちりにしあとに殘る果に
なみだの露やそはるらん。

（二）。榮華もとみもとふときも
みじかき春の夢のごと
あとなくなりし曉は
さめてはかなきものぞかし。

（三）。たもとのしづく草の露
おくれ先だつよの中は
老も若きもすゑつひに
きえてはかなき身とならん。

（四）。この世のなやみたへしのび
かみのまさみちゆく人の
かたちにやどるたましひは
常世の春やしたふらん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

「女學生」に題す

中島俊子

女學生といふの名を以て新たに現はれたる雜誌は廣く女學生の作文詩歌等を集めこれに批評を加へ女學生が文筆の歩を進めんとするの覺悟なりと信じ得らる諸學校の女生徒が其胸底に秘藏する學力の多きに比較すれば外部に飛散する文花の薫り乏しき如く感ぜらるゝは妹が常に惜しむところあれば斯の如き雜誌の世に出しは其益するところ必ずや少なからざるべし諸學校中には一枝の筆巧みに錦繡を織出すの女生徒の多きは疑ふべきに非ざれど動もすれば二派に偏するの弊あり一は優に優を加へ優々然として流水の落花を趁ふ如く其止まるところをしらざる程流暢に過ぎ讀去つてのち意味の何れにありしかを疑はしめんとするものあり一は剛に剛を添へ剛々乎として手荊棘を排して峻峯を攀ぢるの思ひあり人をして溪淸く風涼きの邊一憩を得んと望ましむるものあり女性の文章盛なると共に議論もまた靜かならず其中には男は男女は女と文章の區別なかるべからずとの說もあれど妹は强て其區別を爲すに及ばずと考ふなり如何となれば女性の性質思考自から男性と異なればなり既に異なるの性質を所有する以上は文章に現はるゝところのものも自ら異なるところあるならん人物の上に於ても文章の上に於ても進歩するに隨つて女性は愈よ女性らしくなり男性はいよ〳〵男性らしくなるならんと信ずればなり無法にむかづしき字のみを並べしを以て男らしき文章とも思はざるなり和かき言葉のみにていひ廻はせしを以て女らしき文章とも思はざるなり到底文字は死したるものなり唯活きたる思想の爲に用ひられて始て字に靈ある如く覺ゆなり然れども思想あるが爲めに文章は自然に出來るものといふに非ざれは自由に己れの思想を言得人をして感動せしむるに足るだけに達せざるべからざるは無論の事なりそれに達せんとするには勉て多く文を作りこの女學生雜誌に寄せ廣く批評を得早く文章の妙境に達し純潔なる思想自由なる文章以て社會を益せられん事を作文家と批評家の兩者に望む。

百尺竿頭一歩

みどり

百尺竿頭一步とは、モウ一息と云ふこと也、此のモウ一息と云ふことこそ万づの成功の秘訣にてあれ、諺に人の忍ぶことは人皆な忍ぶ也ナラヌ勘忍をするは勘忍なりと、即はち万人の忍びがたき時にモウ一息の勘忍をする也、ナポレヲン云く勝敗は一呼吸の間に決すと、蓋し最早耐へがたしと云ふの時更に一呼吸をして勇を皷するとき即はち勝つ、此の一イキ、一足、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

一うちの多き方勝を制する也。誠拙禪師の曰く、大江山の淨瑠璃に、賴光岩に腰うち掛け、いかに方々、是より巖壁するどにて、よぢ登るべき道もなし、ひと先づ都に立かへり軍勢を催ふして討取べしとの玉へば、公時かたわらより進み出で、われ〳〵生時は變るとも冥途の道に二つあらし、いざさせ玉へと先立つて云々、もし此時歸らばそれ迄也、道なき所もゆけばこそ鬼神は遂に討取なれ物事みなかゝるものぞと。又白隱禪師の曰く、悟と云ふものは目に見ゆると開けしとて夫にて一生をしまふものあり、目に見えてより修行なり、修行すれば妙所に至り止れば夫れ切り也、いくたびも悟り悟ては又たどるもの也云々。

慈善家ホイト子ー氏一家を訪ふ

しづ

米國公使館の書記、赤坂病院の長、聖書の友の編輯人たる醫博士ホイト子ー氏の一家は、夙に我國に渡來して多年慈善の事に力を盡し玉ひ、之が爲に同胞の幸を蒙むりしと一と方ならず、妾わは兼てより其德を謝し折もあらば未だ知らぬ方々に知らせばやと思ひ侍りしが、此頃ろ貧民の困苦を救はんと其有樣をも承わらんとて過る日赤坂氷川町なる其邸を訪ひぬ。

不幸にしてホイト子ー氏夫婦は外出して在わさず、其儘歸らんとの殘り惜しければ、隣家なる梶梅太郎氏の令室を音づれぬ、梶氏は勝安房伯二男にして、ホイト子ー氏の令妹の良人にてあるなり、令室クラ、ホイト子ー、梶夫人に、此頃ろの貧民救助の次第を聞くに、盖は赤坂のもよりに甚だしき貧民の多くあるが、此頃の米價騰貴の爲に困苦を極め、中には死に至らんとするもの丶あるを歎かわしきとに思ひ、兎に角、一日にても之を助けずばある可らずとて、

信用ある男を八方に派出し實際非常に貧窮せる家々を尋ね廻りて、左る方には赤坂病院の印を捺したる切符一枚づゝ與へ置き、翌る日病院に來り彼の切符に名を記したるを出して、飯料を貰ひ受くるの仕組とせり、最初は麥飯と香の物とを施したるが、寧ろ炊がざるが貧民に都合宜しと考へて、今は米と麥とを三合づゝ與ふる也、斯て一日百五十八人と限り、五月六日より此方日々施與したるが、今日までに凡そ四千人に施したるうち、同人にて四度來りたるもあり、入費は合せて七十圓の余となりぬ最初はたゞ兄(ホイト子ー)と他の二三人の醵金なりしに今は

繼々寄附金を寄せらるゝ人あり

少きも一圓、多きは十五圓に及びて、此后ち尙ほ施與するの餘裕あるは偏へに同志の人の助力によれりと。

妾わは、次に令室及ホイトチー氏等の母上の事を聞けり、何となれば、ホイトチー氏一家の善き心掛は皆な此の賢母の敎育に原ひするとを知りたるがゆへ也、然るに斯く問ふや否や、

涙をハラ〳〵と落し

母の事を思ふときは、今も涙を禁めがたし、我身より直ちにお話しするとの難ければ、其傳を記したるものをお見せ申さんとて、六年前の英字新聞一葉(クリスチアン、スタンダード、エンド、ホーム、ジヨウナル、)を貸し玉へり、下に譯出するもの是れ也。

あゝ此母ありてこそ即はち此の子あるなれ、聞く彼の賢母平生の敎育は「子供等よ御身日本に來れば既に日本人なり日本の人を異國の人と思ふとなかれ必らず眞の同胞と思ひ之が爲に何事にても善き事を爲し參らせよ」と敎ゆるとにてありけり、之を以て其の子は幼けなきより日本人の心地になり、日本人を見ると宛がら同國人の如し、凡そ外國人の通弊は日本人種を一等劣れるの國民となし、自づから之を下げすむの氣風あるとなり、此は何如に溫良の西洋人にても尙ほ免れぬ所ろなれども、ホイトチー氏の一族に至りては聊さかも其失なし、左れば一と度び之に接するものは、皆な其天眞粗朴にして自づから日本人の如く思はるゝの事を思ふなるべし、或人の言葉に、

西洋人にして日本人たるもの

フルベツキ氏と、ボアンナード氏と、ホイトチー氏の三氏ありと、言へるは實に眞なりと思はる。

赤坂病院は彼の賢母の石碑を建る代りに建てられしものなり、聖書の友は月々聖書月報を發兌し且つ四方に委員を置いて專ばら福音の傳播に盡力す、皆なホイトチー氏の周旋に係る、其他寒き冬の夜にはおでん(崑蒻の煮込)賣、の躰となりて町々を歩き、車夫に之を食はせ乍ら道を傳ふるなど、用意の信切に坐はすと、感ずるに餘りありと云ふべし。(傳は次號に載す)

白粉の害

榊俶君演說大意

或人の話しに、小野の小町は白粉の害にて年老ひしのち醜婦となれりと云へれど、受取りがたし、左れど白粉の害あるとは明白なり、榊學士の演述に云く、

今日迄在まする所の白粉を見ますると、(日本に限らず西洋の方のも集つめて見ると)隨分色々の物が有ます。先づ

米の粉麥の粉を白く洒した者或は蝸の殼を焼きスッカリ細にして是れで造る者あり或は炭酸マグ子シヤより造るものが有ります。獨逸邊りで出來ますのは、恰度ワサビの樣な種類の根が有ますが、夫れを乾し固めて牛乳で浴いて顔に擦り貼ると云ふ樣に、色々の者が有ります。其中最も害に爲りますのは鉛の這入つた者で、總て金類の這入つて居る者が毒に爲るので御座います。又少しも害に爲りませんものは、米の粉麥の粉蝸の貝の粉抔は害が有りませんが、所謂炭酸鉛、炭酸と云ふ者と鉛と結付て居る者、夫れが這入つて居まする者は毒で御座います。ソコで私は今日白粉の種類を少し許り持て參りました、御承知の通り白粉には大變種類が御座いますが初おしろい、雪のつや、花かゞみ、つやざくら、つやにしき、などの白粉を聚集て見ました。……價直が高ければ白粉が屹度善くつて害が無いかと云ふに價直には關係しません。此のパッチリと云ふ襟白粉は價直が廉くつて悪い品で有るかと云ふに、分析して見ますと、却て此中には鉛が少ないなどゝ云ふ事が有ります。

皆さんに一ツ直に出來る試驗の仕方をして、御參考の爲に御覽に入ます。白粉の中に鉛の有るのは何して夫を知る事が出來るかと云ふに、元より分析して色々の藥を灌で見ますると直に解りますけれども此の仕方は學問上に渉ますから、實地に遣つて見る事は面倒です、白粉の善惡を知るのに何方でも解る事が有ります。則ち盃に白粉を一杯灌いで置まして夫を貫目にかけて見ますと、何匁何分有る此方は先の者よりかも何分餘計である。貫目が重ければ重い程中に鉛或は亞鉛とか金類が餘計這入て居ると云ふ證據で御座い升。それ故重い物は怪しふ御座います、是れは小間物屋に往て御聞きになつたら、重い者が好いとか輕い方が好いとか云ひませう、併し價直には搆ませんで貫目を見るのが宜う御座います。「殊に因たら鉛の樣な物が有りやせんか」と思つた時には、珈琲杯を飲む銀の匙の上に白粉を少し載て能く火のオコッて居る中に入れ而して之を醒して跡を拭て見まするど、好い白粉なれば銀匙に變り無く、若し其中に鉛或は亞鉛とか云ふ樣な者が這入ッて居ますと錆の樣な者が出來ます、ソコデ濡れた布で拭きますと、後に錆が殘つて此白粉の中には鉛が這入ッて居ると云ふ事を知る事が出きます。

偖て是よりは其鉛が身體を惡くする事を御話し仕ませう。白粉の中に有りまする毒は、鉛が最も多く這入ッて居る、何

為鉛が多く這入ッて居かと云ふに、鉛が餘計這入れば白粉が白く能く附ます。又一ッには價直も廉く製へる事が出來る（日本の白粉許りでは有ません西洋の白粉でも鉛の這入ッたのが御座います）シテ見と先づ差當り毒になると云ふは鉛です。鉛が毒になる譯は色々で御座いますが、最も酷く毒になつた事を御話し致します。鉛の這入た者を始終身體に附まするど、身躰の皮の中に這入ります、所が鉛と云ふは身体に這入と急には外に出ません、身躰の中の人間にとつて大切なる腦だの肝臓抔と云ふ器の中に殘つて仕舞ます。而して時を經に從つて色々の變化を顯し、始めは顏色が惡くなつて參ります。是れは平生誰でも云ふ事で御座いますが濃く白粉を附けて居ると云ふと何うも顏色が惡くなる、即ち顏の色が只青い許りでなく顏が粗になつて水氣が無なり、色も黄味を含だ青い色になる、唇の色は紫色になつて、齶や何かから血が出る。夫と同時に心持ちが懶い様になつて、何もするのが厭になり「モウ相談なんぞは何でも能い、モウ何もそんな事は面倒だ」と、只愚圖々々として仕舞うのです。夫から又先きに進んで來ますると、身體が段々瘦せて目が凹み、皮が凡て今まで張りて居たのが、皺が餘計に出來て來る、次は血が寡くなります。汚ない御話しだが便通が無くなつて來て、身體が震へる、先づ手を出して居ると其手が震へる。斯いふ様な病氣は幾干も御座いますから中々見ても何の病氣だか知ないが、モット一段先きに進んで來ますと、齒の痛みが始り、下腹の眞中の處が大變酷く痛む、夜間も寢られず、起ても座ッても居られない様な痛みで、手足が利かなくなつて仕舞う、して手がぶらんと下つて來ます、そして四肢が震へあがつて參り、妙な恰好に爲りまするから、醫學の書物にも書て有ります、夫からして恰度手が利なくなると今度は足の方に來ます、足を引ずつて歩き眞實には利ない。夫れからして今度大切なのは眞實の精神病になる。眞正の精神病になると、心が弱りて仕舞ひ恰度氣ぬけと云ふ様に成ります。けれども今お話し仕ましたのは酷いので鉛の細工をして居るとか、或は鉛の道具を製らへる人、鉄鉋の玉を製らへる人、活字を製する者抔で、白粉を附ける人では無いのですが、濃く白粉をつけます者、又始終白粉を附けて居る者が毒に罹つて、手足が利かないで居ると云ふのは、隨分有るべき事である。

三宅雄二郎氏の演說

過る日廢娼同盟會大演說の夜、三宅雄二郎氏檀に登るや、喝采沸くが如く且つ政治の改革者、正義の友、など絕叫するもの四隅に反響す、氏は辨訥なれども非常の熱心にて演ぜられける。其の大意は、動物は皆な飾ると云ふ性質あり即はち其見惡き所ろを隱すの性質にして、此點に於ては人と異なるとなし、然るに人には總べての動物に無き一種の飾りの念あり、此の飾りは如何なる動物にも無き所ろにして只だ人にのみあり即はち人が動物に優るの一點にして之を伸ばすいよ／＼長きほどいよ／＼動物を遠ざかるものあり、其特別の飾りとは即はち格段ある恥る心にして所謂陰部を隱すの性これ也、此の性あらゆる動物にあるとなし……而して此の陰部を隱すの習慣は何如なる野蠻人にもあり、彼等裸躰なりとも必らず腰をまとふ、此より開化すると共にいよ／＼下をかくし、遂に裳先づ出來て后に衣を生じ、漸やく登りて顏をほひをも製するに至る、如此く亦た社會上に陰事をかくすの習慣漸次に進步し、昔しは何とも思はず公けに致したる事をも文明の開くると共に之を隱すに至れり……然るに今ま都の何の方角には淫を行ふ所ろありと公言し、宛から一家屋中の何の部屋は夜けがらはしき事に用ゆるの室なりと張札するとの如く、特更ら之を明示して白日堂々世人に知らするに至りては何にたるとぞ、人は動物に異なりて陰部を隱すの美質ありと云ふか、左らば遊廓の如き社會上に於けるの陰部は即はち決して公許し置くべきにあらず、之を全廢するは人類の榮譽也、義務也、責任也……。

家の手わざ

天知翁

養雞月々の仕事(續き)

八月。は最も炎暑の時にして、其仕事は前月と異なる所なしと雖ども、總ての上に一層手厚く注意を怠るべからず、

九月。は仕事別段になく、人に由り孵化に着手する者あれども、生育甚だ六かしく頗る熟練の取扱ひに非れば多くは死なしむるものあれば、行はざるを利益なりとす、併し或家禽家は言へり、此月には家鴨を孵化さしむべし、然る時は歲暮の用意に可なりと、家鴨の飼方六かしきに非ず、食物も重もに臺所の殘り物を用ひて濟むあり、唯清潔に有つ事必要にて敢へて水なき所にても飼はるゝなり、

十月。は冬間の總ての準備を整へ置くの月なり、溫暖を有

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

つべき材料と食物の如き之れなり、地方の風土に由り異りと雖ども、藁、籾糠、乾草、等と必要の食物とを肝要のものとす、但し防寒の材料は東京邊にては藁、筵位ひにて充分なれど奥羽北陸の如き寒地にては舍内を温むる暖爐等の備へ必要なるべし、

十一月。　は寒氣と濕氣とを防ぐ備へを為す時なり、原來家禽は熱帶地方の原産なるが故、頗る高温度の食物に堪え、從ふて寒冷を忌む事知るべし、此月には舍内及び運動場にも籾糠、藁などを普ねく撒布し又舍の周りも菰等にて包むべし、食物は成るべく骨や肉を奏たる汁に交へて與ふるようにするを要す、少くも日に一度は温きもの(殊に朝)を食はしむべし飲水の如きも成べくは微温湯を與ふべく、氷結せざるようせめても注意ありたきものなり、

十二月。　は最も防寒の事に注意し、務めて温かきものを食はしめ、多少の肉類を與ふる事をなすべし、當月の注意の結果は(殊に食物の)春に至り大に顯はるゝものにして、産卵の多少は實に其食物に關するものなるを知るべし。

小説

うき世　其三

かをる

四境音既に絶えて萬籟寂たり、窓を開ひて望めば更け行く月影西の塔上に傾きぬ、友は昨日出でたるまゝまだ歸り來ず、病める身の獨り住居、三度の食時を下女が運び來る外亦訪ふ人は絶えてなし、今日は晝の間に昨夜の文をかきつかんと思へり、如何にせん昨夜眠らざりければ身の疲れ甚しかりしを病ある者の常と聞きぬ、夜は眠られぬを、余は今之を誠なりと知りぬ、さてまた獨り昔を忍ばん。

余は幼き友だち打連れて野邊に出で紙鳶を飛はしつ、半日を過しけり、山颪ふき絶ゆるひまなく、雪吹さへ折〱亂れ降て寒さいはん方なかりき、されど小兒は風の子と聞き覺ゆ、かばかりの寒さに恐るべきかはと互に勵み勵ましつ、いと樂くも戯れけりその内ばかり夜もすがら慕ひし母上の事をも忘れにき、忘れしひまは樂しかりき、嗚呼世に生れ來て杖柱とも賴むべき母上を忘れて樂きとは如何なる不幸ぞや、余は悲むとも惱むとも母上を忘ざりしを希ふ、悲みをも知らざりし稚な

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

心、思ひかへすも誠にくやし。

家に歸りし時は十二時をや過ぎたりけん、人々墓原に詣づる用意をなし居たりき、余が歸るを見て父上は早く中食をなし、母上の所に參るべしと云ひ給ひぬ、今は我故郷もやゝ開けつらん、眞の敎も傳はりしと聞く、余が幼なかりし時はまだ昔ながらの道を守りぬ、余はやがて人々に伴はれ、母上を見んと喜びて墓原に行きぬ。

冬されば野邊の草木も枯れ果てゝ、只見る嵐に惱む枯草、只聞く枯梢に鳴く寒鳥の聲、勿論花とてはなし、只水仙とやらん冬咲く花ありけり、之を二ッ三ッ持ちゆきて母上の墓前に置く人あり、亦あるは常盤木を手折りて土にさすもあり、終りに水を手向け、香を燒きて人々亦打つれて歸りぬ、余は母上を見ずば歸らじとて泣きぬ、人々今宵は歸り玉ふべし抔云いて余を連れ歸りぬ、其夜はまだ余の家に止る人も多く余が眠るまで賑はしかりき。

明くる日は止る人も少なくなりぬ、午後になりて父上は余を伴ひて亦前日の如く水と香とを持ち、母上の墓に詣り玉ひぬ、此時母上の墓前にて靜かに語り玉ひぬ、汝が母を慕ひまつるも母上は再び歸り來玉はじ、此處に靜かに眠り玉ふが故に亦母上をな呼び玉ひぞ、汝は今幼けなくして母に別る、誠に不幸の者ぞかし、されど我不幸は汝に勝る、汝が母を慕ふ聲を聞くごとに我腸を絶たるゝ計り苦し、母上の身まかりしは誠に悲しき事なれど浮雲に似たる人の命、天運なれば是非もなし、汝亦母上と云ふ勿れと、度々繰り返して云ひ玉ひぬ、余は誠に母上は歸り玉はずや、されば余は此處を去らじと、父上の云ひ玉ひけるは此處は墓原にて止るべきにあらず、日暮れば彼の古寺より幽靈出でいと恐ろしかり、家に歸るに如かじと、余は尙聞き入れず、母上の側らに居まさば譬へ幽靈の出るあるも恐れじ、只母上と共に在らまほしと云ひぬ、父は忍びかね只默然として涙にくれ玉ひき、母上の靈在まし、幽明を隔てゝ聞き玉ひしならん、如何に父上の爲め、余が爲めに悲しみ玉ひけん、思ひ見るだにアヽ斷魂。

一七日が程、父は日毎に母上の墓に詣り玉ひぬ、何時も余を連れ玉はぬ事なかりし、余は之をいと樂しく覺えぬ、朝起き出づれば直く父上の側に行き母上を見舞はずや、何時行き玉ふらん抔云ひぬ、父上は中食過ぎなば行かん暫し待ちねと云ひ玉ひぬ、余は半日の長き心地して幾度も父上をセガミぬ、父上がイザ行かんを云へば余は飛び立ちて喜びぬ。

一七日も過ぎ去れば父上は七日毎に墓に詣りぬ、余は其故を知らねば日毎に詣らんと云ひて聞かざりき、父上は行き玉はねば余は遊びに出るとて獨り墓に行きぬ、稚な心とて淋しとも思はず墓近く生ふる常盤木など手折りてさし、飯を手向くる椀もて側らなる手洗石の水を汲み取りつ、墓の上に打こぼし細き手合せて念ずる躰をなしぬ、嘗て父上が爲せしを見覺へたればなり。

余が獨り墓に詣りし日の事なりき、久しく家に歸らざりしとて父上は心配し玉ひ、所々を尋ねめぐりし後遂に、母上の墓に詣る事もやあらんと心づき玉ひぬ、至りて見れば果して余は居たり、余は父上の來玉ふを知らねば墓邊の石に腰打かけ氷り居し土の上に常盤木の小枝をさゝんとし手冷ゆれば口にあて、息もて暖め亦さゝんと試み居たりしとぞ、父上は餘りの事と思ひ、近づきもせず暫し佇み玉ひしとあん、やがて近づきて余を召び歸り玉ひし。

親子兄弟睦しく打集ひ、爐を擁して團欒しつ、埋火の赤き心を語り且聞く、こは是櫻炭なりとなん、早や花咲く頃ぞ待たるゝ、打連れて亦樂しく遊ばなん、過にし春は實に樂しかりけり抔云ひて樂む人も多からん、余は一人の兄あれど、固是義理ある兄、余の生るゝより先き、養ひ取りし人なりと聞きぬ、母上身まかりし後はもとの家に暫し歸らしめぬ、家には父上と、六十路あまりの、下女のみありき、されば人は埋火の側らに集ひ語る冬の夜も家内寂寥たりき、只時々信るゝものは窓もる風のみ、爐火冷かにして、家内を暖めず、燈光悲しめる色ありて影暗かりき、父上は何を思ひ居玉ひけん何時も頭を打たれて何も云ひ玉はざりき、思ひやる萬斛の悲愁胸に滿ちし時を。

余の故郷は山深き所なれば雪降る事度々なりき、雪降れば戶外に出る事も心ならず、父上と下女が時々余を慰め吳れぬ、未だ東西も知らず、是非も辨ぜざりければ物の道理を說けば分らず玩具を與ふれば久しからずして倦み、畢ては母上を慕ひて云ひぬ、母上は何時歸り來玉ふらん、何故余を獨り殘して墓には行き玉ひけん、今日は雪降り風寒し、母上は如何に寒からん、此埋火の邊りに打つどひ隣家の友の如く母上に抱かれたらんにはいかに樂しかるらむ、乳も呑むべきに、溫顏もて愛し玉はんに、母上はなどて斯くはつれなかるらん、母上は未だ歸り來ませずや、抔云ひて窓を開き見し事も屢ありしとなん。

雪融くれば都の祖父君が贈り玉ひし靴を穿ちつ、日毎に墓原

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

に行き、ものを手向けつ禮拜しぬ、暮天ほの暗くなり、遠山の端に燈見はれ、遠寺の鐘今日も暮れぬと告げ渡る頃迄悄然として墓前に在りし事も多かりき、日は西山に謝して千古變るなし、北邙の煙立昇りて万秋絶えず、人は滅び行く、逝きしもの亦帰るなし、余は空しく母上を待ちぬ。

懸賞答文受賞者

「理想男子」の答

上點　玉蘭女史（小川濟子）
中點　昱子
下點、左　舘林NK女（實名不載）
同　右　筑東井蛙女（同）

「理想佳人」の答

上點　北原種忠（長崎市袋町）
中點　武本喜代藏（伯耆小鴨村）
下點、左　有吉忠一（京都吉田町）
下點、右　高曾根重左衛門（芝二本榎西町）

右　文次號より續々掲載すべし。

寄書

あゆみし道

熊本　背眞　千秋生

我、罪を犯す、禍ひなるかな、彼、強きこと、鬼の如く、彼、熾なること、火の如し、我、惱める人なるかな、罪の爲に愁ひ、罪に因りて悲しむ、我、不幸なるかな、嗚呼、我、之に泣く、我、目に熱水を流す、可憐なる人、之に勝つ能はず我、禍なるかな、罪よ、死せ、我、生きよ、我願、叶はんか、罪の我を、退かんこと、我望、達するとせんか、我、眞に、義人とならん、噫、

神の惠みは、草木にさへ、あまねく及ひ、春と秋の、景色も妙に、麗はしかる、なかに我のみ、罪に汚かる、

誠に然り矣、草木自ら、春秋の、色を見はし、至高の、榮を輝す、是を見れは、我心、愁ふ、我身、慄ふ、天下、我、獨り汚物のみ、嗚呼、禍ひなるかな、是を思へば、志、碎け、望、絶ゆ、文ならず、詩ならず、歌ならず、言、調はず、說、詳ならず、我、我を恨む、我、我を辱しむ、我、我を冷笑ふ、眞に、不幸なる乎哉、

然れと野に呼へるものあり、是を聞く、樂し、曰く

噫、エルサレムよ、エルサレムよ、預言者を殺し、爾に、遣はさるゝ者を、石にて、擊つ者よ、母鷄の、鶵を翼の、下に集る如く、我、なんぢの、赤子を、集めんとせしこと、幾次ぞや、然と、爾曹は、好まざりき、視よ、爾曹の家は荒地となりて、遺れん、我爾曹に告ん、主の名に、託りて來る者は、福なり、と嗚呼、此の言、眞ならんか、死したる我、復た活く、絕へたる、我望、再ひ生く、碎けたる我志、又た發く、まことに樂ひかな、悲愁の淚、乾く、喜悅の笑、迸る我福なるかな、

サレハ、月、淸し、風爽かに、花麗はしく、水淡し、我心、潔し、我心、明なり、天か下の、萬の物、皆な、すへて、我が友なり、野に走るも、快、川に棹すも樂、郊外に步するも、悅、田に耕するも、喜、學窓に孜々するも、眞に、面白し、嗚呼、天地擧て、寬す、罪なき我心には、乾坤の歡樂を、祝するを得るなり、天を知るものは如此、天を信ずるものは、斯の如く、天を懼るものは實に、斯の如き乎哉、

Art is long, and Time is fleeting, And our hearts,
though stout and brave, Still, like muffled Drums,
are beating Funeral marches to the grave.

Longfellow.

古の聖人、已に斯の如く歌へり、嗚呼、人生の義務多し、働作の光陰は、流るゝ水の如し矣、人生の旅路、艱多く、難、緊し、山あり、谷あり、河あり、洋あり、風あり、波あり、嗚吁、激濤、岩を碎く、海岸に起て、望めば、實に遠し矣、唯水天、髣髴、雲霧、茫漠中、遙に、カナンの、地を望羨むのみ、噫、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

開書

講義錄の爲一言御禮申下げん

妾は學もなく又才もなき俗々としたる一女子であります幼い時より身體健かでなきゆへ人なみの教育を受くる事がかないませんでありましたが近頃大に健かになりますと同時に父の勉の爲に都をはなれ三とせの間いぶか住ひを致す故學ばんとしても師のなきには如何にせん學ぶことも出來ずたゞ殘念にのみ思ひくらしせめて此身にかなうだけ書を讀み學びも致さんと種々と心を附け何とぞよき書もがなとのみ思ひ居りしに折から貴社女學雜誌に通信女學講義錄の廣告がありしを一目見たる時其時の喜び何にたとへんようもなく常にいのりし神の賜物ぞと天地を拜し早速取よせひもとき初めてより五ヶ月に至りしが私の如き學に拙なきものはいかほどの益を致せしか自分にも計られず故に筆には中〳〵つくされませぬ此れ貴社の爲に大ひに謝します處であります向後共妾やうなるものをすくはせ玉ふやうと拙なき文もかへり見ず只講義錄の御厚恩をいさゝか御禮申上るのみよろしく御はんじくだされますやう御願申上ます(中村にて賤の女ゆき)

交詢

みれ子

●前橋吉川孃　廢娼同盟會の事に付て御返事が延引致し不本意の至りです、御篤志の段何如にも敬服の事ですが、現今どれ程の學力を有せらるゝかを承知せれば確かにはお答へが出來ませぬ、然し餘り無理を爲さるゝとは女學生の爲に取らぬ所ろと平生信じて居りますから、成るべくは尋常科の方に先づお這入りになりては何如ん、又他の校にても師範科をお學びになるとも出來ますが、政府の如く給費と申すやうに成らぬが遺憾です、兎に角、君の學力、貧力、年齡、平生のお好み、等を申越さるれば亦信ずるまゝを一層くはしくお答へ致しましやう（善治）。

●柳川沈想生君　至誠と云ふ事を辨解せよとの仰せ精しく說きますれば中々長くなりましようが簡略に申せばマジメに心よりする事でしよふ即ち名利の爲めとか政畧とか云ふ分子の加はゝらぬ時が至誠でありましよう

●駿台愛讀生樣　米國第一大統領の傳はワシントン、アヴーヰングの著作が宜しひでしよう尙外に多くありましよふが今記臆して居ません

●厚木のあぶに申す　御研究の書物は如何なるものですか、亦一回に如何程の御質問があるのですか、夫れを伺つた上で御周旋も致して見ましよふ何分今一應精しき所を聞かせて下さい

●西都流琴子　二十著作者中悉くは分りません分つただけ申します、爲永の著では梅曆、初霞、袖の梅、婦女八賢志抔が宜しく、京傳のでは双蝶記、稻妻表紙、三馬のでは阿古義物語、種彥のでは田舍源氏、淺間岳面影草紙、霜夜星、小枝のでは小栗外傳、松王物語、新田功臣錄等、蘭山のでは青葉笛星月夜顯晦錄等、爲馬のでは假名手本後日文章、一九のでは世の中貧福論、安本丹といふ樣なものが宜しいのでしよふ西鶴の著作中には未だ鉛版に附したるものを見受ません、しからみ草紙の古聲遺曲と云へる所と、日本の文華の古繡と云ふ欄內に少し宛載せてあります、別に冊子としたのはありますまい、其餘の著作者の分は後に答へます、

時事

幾變遷

井上馨氏歸京し、農商務次官に變動あり、文部省にも彼此と評判あり、閣雲又々定めなき相あり、一變又一變、そも〳〵何處まで變るべきか、さて〳〵近來の雲行の賴みなきとよ、異日もし明治二十二三年の開化史を作るものあらば、迚も此の實相を穿ち得まじき也。

開化史

井上毅氏則はち辭職し、明治政史を編輯すと云へり、左れど方今君の如き剛忠の士を失ふは、万金を失ふよりも悲し。

目下政界の最大美事

帝國議會目前に迫る、今に於て民間進步黨の大聯合を圖るは無上の美事あり、之を彼の漠然たる大同團結の創立に比ぶる時は同日の論にあらず、吾人は改進黨及庚寅俱樂部の諸有志者が其度量を濶大にせんとを望むと共に、切に九州に於ける偉男兒の忍耐敢爲必々此を落成せんとを祈るもの也。

義人の涙

貧民の飢に泣く時、誇つて酒池肉林に豪遊するものは一種の紳商なり、然れども ニ子パ亦た義人なきに非ず、前號記載の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

外麴町區にては末吉忠晴、土田安五郎の二氏白米分施廉賣の事を發起し、婦人矯風會慈善部員及び板倉謙三郎、濱地八郎、大野淸太郎の諸氏は慈善演說會を催ふし、大山伯方に寄留するカロックス夫人は三千五百圓を以て貧民に食物を給與し、横濱フェリス女學校デヨー孃は乙女十人の會と共に發起して園遊會を催し殘金一百九十圓を義捐し、横濱婦人慈善會員は例の如くに盡力して此際救助一と方ならず、何禮之君は全快祝に米若干を惠與し、府下各女學校に於ては目下夫々に集金中の由、又神戶には貧民救濟義會起り、山形縣西里村には向ふ五ヶ月間貧民を助くるの美法を設けたり、夫れ世は如此き人あるによりて尙ほ亡びざるを得る也。

無言の說教

過る日三十餘の一婦人我社を訪ひ、金五圓五十錢を出して、曩の無名氏寄附十圓に合せて貧民救助に用ひよと囑せらる、容姿温雅、頗ぶる高潔の風あり、社員其名を聞くに辭して言はず率々として立去られたり、余は之に面會せざりしを如何にも殘り惜しく思ふ也、本誌編輯の日(三日)迄に未だ横濱より返書來らざるにより、其次第に由りて用方を定め、次號にて知らせ參らせんとす。

天使の魔行

在陸中花卷の內田氏書を編者に寄せて云く、近頃貴下の御身上に付き滔々たる俗膓輩種々なる浮說を揑造致候樣新聞紙上にて承はり候正義なる改革者にして圖らざる災厄に遭遇するは古今東西同一徹云々。又番町某と云ふ人の寄書に云く足下廢娼論を主張し乍ら不品行を爲すとの風聞あり若し然らば之れ存娼論を主張する也云々。余は一々田舍の新聞紙を讀まず又一々風評をも聞かず然れども定めし樣々の事を云ふなるべし、願ふ所ろは堂々事實を示され明々に酷責せらるゝにあり、余は常に人の忠告を樂しみ居るもの也。凡そ道に志すものは悔改する所ろなかる可らず、然れども悔ゆる迄は斷信す千万人何如に評すとも自から耻る所ろなきもの也、余平常之を學ぶ。

今の德育法唯一

小學校の德育法唯一、即はち義を見て動かざるの斷念を兒童の良心に肝銘すると是れ也、然るに或る時は孔孟となり、或る時は理學宗となり、或る時は功利論となり、或る時は佛敎となり、何の譯もなく頻々動搖して兒童に確たる信仰を失なはしむ之れ豈に德育法の至良なるものならんや、故に文部省

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

に於て德育法を行はんとせば其德育法あるものに關係せざるにあり、此に於てか辛ふじて德育成るべし。

個人、國家

自由論者は討論して云く、吾黨の自由は個人主義あり、否あ我黨は國家主義ありと、而して敎育家は亦た會議して云く、本員の敎育主義は個人主義なり、否ゐ本員のは國家主義なりと。個人主義と國家主義とは實際如何なる相違のあるものよや、不肖吾人の如きものは瞭解すると難し。然れども國家主義と開發主義と、民權主義と國家主義とは抑も如何なる關係のあるものよや、此邊も今の論者に伺ひ置たきもの也。

廢娼記事

●廢娼同盟會入費報告

○入金　四十圓四十三錢

一、寄附金……………………三三、九〇

內譯

三圓宛寄附（島田三郎、湯淺二郎、スピンチル、ホイトチー、伴直之介、石崎政造、廢娼壯年義會、巖本善治）。

二圓宛寄附（小島官吾、飯野吉三郎、渡瀨寅二郎、根本正）。

一圓寄附（ヱッチ、ロウス）。

五十錢（丹波船井郡順治前田貫一郎）。

二十錢宛（盤城平青年會、防長廢娼同盟會）。

二、下足料二日分……………四、五三（初日、二圓四十六錢次日、二圓〇七錢）

三、原稿料……………二、〇〇（大江卓氏演說筆記借用に付女學雜誌社より拂）。

合計　四〇、四三

○出金　四十四圓九十二錢九厘

〇、二三	最初各地報告帋筆代、
二、〇〇	助手小見道三郎氏へ渡す。
一、五〇	各地報告書狀發送郵券
〇、二五	年會の節菓子代
〇、二二	同前茶代
	厚生舘張出帋代
〇、一八	二夜蠟燭代
一七、三〇	二夜厚生舘席貸
二、八〇	二夜下足入夫代各日四人宛
〇、四五	ヰービ氏車代
〇、二九	金森通倫氏車代
〇、一五	植木枝盛氏車代
〇、一五	植木氏急ぎ迎人力車代
二、〇〇	飾植木借賃
〇、二〇	太皷借用料
四、二五	年會廣告五新聞拂
四、一一三	演說會廣告四新聞拂
七、〇〇	速記料佃與二郎氏拂
〇、八二	年會景況各地報告郵券
〇、二〇	同前報告印刷料

合計　四四、九二九

差引不足　四、四九九

右不足金に對し義捐の人あらば謝受すべし。

●廢娼同盟會懇親會

前號に記し殘したる第四日目夜の懇親會には、出席者六十餘名、席上、植木枝盛、根本正、小島官吾、石島良三郎、松山高吉、飯野吉三郎、矢島かぢ、佐々城豐壽、清水豐子、其他各氏の有益慷慨なる演說あり、非常の快ちよき集りにて一層歡を盡し皆な奮ふて分袂したり。

●板垣退助君の廢娼論

其時植木枝盛君の演說に云く、高知縣に於て初めて廢娼建議を出すさきにも一人の朋友なかりき、只だ始めより之に贊成し、之を勵まし之を助けたるものは板垣退助君にして、君は純然たる熱心の廢娼論者なりと。

●存娼演說

新世界泰平即はち元の氏家直國氏上京し、去卅一日富士見樓に於て存娼大演說を催ふす聽衆六十人。

●廢娼の方角に一歩を進む

と題し讀賣記者の云、公許を鼻に掛け立派なる商法と心得てか又は營業上止むを得ざるの手段に出たるか吉原にて種々遊客誘導の方策を考へ梅櫻菖蒲菊を植込み又は籠燈仁和賀を催し良家の子弟を誘惑するは余輩存娼論者と雖ども不同意なる所今度斯る誘導手段は一切許可すべからざる旨警視總監より田町警察署長に內命ありたるよし。

●正誤

前號廢娼記事中、代人出席の部に、メソヂスト下谷青年會同婦人會の名を脫したり。

通信

橫濱婦人慈善會

昨年來諸人の知る如く天災地震加ふるに物價騰貴し一般職業上不景氣となり其が爲非命の死を遂ぐる者少なからざる而已ならず惡業惡行を爲し國躰を耻かしむる者日に增加するを聞き勃然悲痛愛憐の情與り玆に於て乎彼等を救助せんが爲當地同感の婦人相會し婦女慈善會を計りしに異口同音恰も符節を合せし如く贊成の聲を擧げ以て昨年の末始めて橫濱婦人慈善會なる者を與すに至れり扨本會の目的は前述の次第なれば會名の如く一切慈善に關したる事業を爲すにあり目今會員百十七名集金六百圓有餘施濟せし金額百圓以上に及べり

創立以來本會ノ働キ

第一　就職施藥施療惠金惠食惠衣せし三百廿六名但し右施濟に預りし者は極貧或は大病にして救助せざれば生命を維持する事不能者とす

第二　本會より費用を支辨して療養なさしめつゝある者二名

第三　貧民小學校一箇所

第四　惡性矯正爲教育中の小女一名

第五　施食所施療所四箇所但し毎日一ヶ所に付平均施食する者五十名施療を受る者右半額數とす

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

右第五の働きに付ては往々乞食を養成するにあらざる乎と掛念せらるゝ向も有之るらんが此點に於ては本會設立以前に於て非常に注意する件なれば幸に本會創立以來第五に就て誤りを見ざる而已ならず反て良結果を顯したり蓋大病人を訪ひ醫藥を與へ不職にして饑餓に迫る者に食物を與ふると同時に就職なさしめ貧者を慰め活路の方法を與へ各をして獨立自活の道を教へて實行大益あらしめたればなり若世間風評を恐れ乞食養成を恐れて爲さずんば日々路に倒れて非命の死を遂げ或は竊盜をなして我政府を煩し或は身を耻めて食を得んとする者多からん然ども幸に本會は諸役員を除くの外奔走員として實際貧窮者の有樣を親しく觀察する委員八名ありて此等の役員能々探偵して然る上に救濟するを以て目今の處にては更に世人の掛念せらるゝ憂なきなり

將來の目的

第一貧人の爲病院を設立すべき事

第二女子出獄人をして就職せしむべき事

第三孤子養育院設立の事

第四娼妓全廢の件等なり

女報

○王女誕生　本年三月二十八日能久親王殿下の王女御誕生武子と名けらるゝ旨去る廿八日宮內大臣より告示せられたり。

○女子高等師範學校教諭　去月二十八日野口保興氏女子高等師範學校教諭に任ぜらる。

○地久節　去る廿八日華族女學校に於ては皇后陛下の御誕辰奉祝の爲め一同參集して御眞影を奉拜し祝辭、唱歌、奏樂等あり畢て生徒一同へ菓菓の饗應ありし由。

○御食初式　青山御所に御養育あらせらるゝ皇女周宮殿下は去る廿七日御誕生後一百十日に成らせらるゝに付御食初の御式を擧げさせられたる由に承る。

○名古屋淸流女學校　は當今教場の數五個、女生徒の數七十餘名に達したる由なるが去る廿八日には生徒一同よりして皇后陛下の御誕辰を祝し奉る爲めにとて一篇の祝辭を宮內大臣に呈出したりと云ふ。

○共立女學校の祝宴　過る廿八日は皇后陛下の御誕辰に當りしにつき祝意を表せん爲め牧師教師及生徒一同を招待して祝宴を開きたり、開會は午後二時にて六時迄種々の技を演じ、終りて橫濱市中の貧民一百人に白米一石を施與せりと同校內研習會より報じ來ぬ。

○婦人衞生會の演說　今七日（第一土曜日）午後一時より京橋區宗十郎町七番地大日本私立衞生會に於て例會を開く由當日の講師演題は笠原光興君（看病法に就て）濱田玄達君（未定）榊俶君（未定）なりと云ふ。

○女子靑年俱樂部　有志の婦人を募つて會を組織し之れを女子靑年俱樂部と名づけ、女子の弊風を矯正し、慈善の働きを爲し、智を硏き、德を積み、他日良妻となり賢母となるの用意を爲す由。

○ギユリキ孃　神戶女學校のギユリキ孃今の宮川孃はベレー孃と共もに近日渡米し、エスレー女大學に入校の由。

○ウインニー、デザヰス孃　故ゼッファーソンデザヰス氏の令孃は今度アルフレッド、ウヰルキンソン氏と結婚の約を爲せしとぞ、ウヰルキンソン氏は世人の知る如く有名なる廢奴論者なり。

○婦人演說　チルミストンチヤント夫人は有名なる演說家にて　女子に撰擧權を與ふべき論を主張し居る由、過日ミシガンのアンアルバーにて演說せし際坏は聽衆堂に溢れ百餘人空しく歸りしといふ以て婦人の名望如何を知るに足るべし。

○ソーテル夫人　「ハーヴァード」大學に附屬學校を設けて盡力せしはロビンソンソーテル夫人なり、其始めは僅かに二十五人の生徒にて始めしが十年の後即ち今日にては二百五十人の多きに達せりと云ふ。

○ヂウエット孃　は嘗て面白き小說を著はし名を博せしが今回其著作中最も面白きもの八篇を撰んで一篇の册子となす由定めて世に愛誦せられん。

週報

○官令　二十九日法律第三十九號にて市町村制會議員撰擧罰則に關する件同四十號にて衆議院議員撰擧法罰則補則同四十一號にて府縣會議員撰擧と衆議員撰擧法罰則補則を適用するの件を裁可公布せらる●三十一日勅令第八十七號にて二十三年度徵集すべき新兵の員數表を裁可公布せらる。

○宮廷　二十七日皇太后宮陛下第三內國勸業博覽會へ行啓●廿八日皇后陛下御誕辰に付き親王同妃親任官其他宮內省高等官へ酒饌を賜りたり●三十日宮中に於て勳章奉授式執行。

○政治　二十七日山縣、西鄕、松方、山田、大山、後藤、靑木、樺山、陸奧の十大臣は登閣して會議を開けり●廿九日臨時內閣會議各大臣參集せり●三十日の閣議には山縣、松方、西鄕、大山、靑木の五大臣參集せり●廿九日鳥尾小彌太氏願に依て本官を免せらる。

○外交　淸國中興の名臣彭玉麟氏は四月廿四日長逝せられたり

○叢報　二十七日浮世繪師鮮齋永濯翁沒す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の敎員孰れも熟達善良あり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所あり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

廣告

知友に告ぐ

不肖の身を棄てず御信切の書狀を寄せ且つ樣々の事を問合さるゝ仁多し尋常の用務と異なり成るべく細密に應答致したく存候に付きては多忙中通信追々延引し遺憾極めて多く左れど必らず愚答可仕覺悟に付右延引暫く御容赦ありたく候舊知の人には欠禮は寛恕し玉わると思ひ安んずるともあれ未見の友人に對しては何如にも心苦しく候儘此儀秊上に於て兼て御斷申上置候也。

尙ほ小生日々出社夜に入る迄罷在ると雖とも水曜日前は編輯中にて長く御面會致兼候。

麹町區富士見町二丁目一番地

巖本善治

●演說　開場七時半開會

來る十四日午後六時

辨士　マンキンターフ君　美山貫一君

下谷區徒士町二丁目卅八番地

日本メソヂスト下谷　青年會　婦人會

◉文學及び速記術に志さるゝ令孃諸君に告ぐ

●速記彙報

◉◉毎月一回（十一日）發行　五月十一日第十八册發行

速記彙報一册價郵稅共八錢

●内閣官報局篇纂

送假名法

（目次）

◉總則　◉名詞　◉代名詞　◉形容詞　◉動詞　◉副詞

◉接續詞　◉後置詞　◉咏嘆詞　◉音便　◉略字及濁音字

此編は文學士濱田健次郎君の起稿に係り内閣官報局員諸君の審査討議を經て完成せしものにして操觚家に必要なると論を待たず、因て當所は今回特に内閣官報局の允許を得て**速記彙報**第十六册以下に掲載し操觚家の參考に供するとせり。（殊に讀者に便ならんが爲め完結の上は連綴して一書と爲し得る樣印刷せり）

●東京神田區裏神保町一番地

速記彙報發行所

鈴木弘恭大人講述

百人一首講義　三版

普通製本　價金三十五錢　郵送料四錢

右悉皆賣切れ候處尙ほ各地より續々御注文に相成候に付き至急三版致し候間御入用の御方樣は可成速に御申込可被下候然らざれば又々部數に不足を生じ御求めに應じかたき儀も可有之かと存じ候

通信女學　第六卷

價金三十二錢　全國一般無郵稅

來る十二日出版致し候に付き續々御注文の程奉願上候也

麹町區富士見町二丁目一番地

女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

カロ
減順氣散
（げんじゆんきさん）

定價四錢五厘　ふりだしぐすり

婦人血の道子宮より發る的病男女

四季感冒頭痛其他効能は包書に委し

本家　東京日本橋通一丁目　須原屋　北畠茂兵衛

●たむし患者に案内●

我療法は伯爵海舟老翁の所謂獨得の神法にして全く世間普通の醫藥と違ひ内攻、再發、留傷等一切の危險なく如何なる痼疾だも容易に根治するは數千全治者の洽く確認する所にして世既に公評のあるあり豈復自賛を要せんや遠近の患者特に他療にて治癒せざる患者は速に實驗せられよ若藥効なくば藥價を請けず

東京神田區錦町二丁目一番地河岸通

十　專科　頑癬治療所

注意社告

前金切の節は雜誌の封紙に朱印の半錢形を捺す、之によりて前金を廻送あれ、然らざれば一時發送を見合す。

代金を送らるゝには通運便又は郵便小爲替にて麹町郵便局へ當て御振込被下候樣奉願上候。

發刊

六月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	
七月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
八月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日

定價

一册。六錢　郵稅。五厘　（但府内無郵稅）
十册。五十八錢郵稅。五錢　（同前）
半年分　一圓四十三錢　府外は　一圓五十六錢
一年分　二圓六十錢　府外は　二圓八十六錢

廣告

一行　一回　（廿七字詰）　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

明治二十三年六月六日印刷
明治二十三年六月七日出版

發行所　東京麹町區富士見町二丁目一番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　東京麹町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治

印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.56 six month *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1B. FUJIMICHO 2CHYOME, KOJIMACHI, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

加減順氣散（かげんじゅんきさん）

ふりだしぐすり

定價四錢五厘

婦人血の道子宮より發る的病男女
四季感冒頭痛　其他効能は包書に委し

本家　東京日本橋通一丁目　須原屋　北畠茂兵衛

●たむし患者に案内●

我療法は伯爵海舟老翁の所謂獨得の神法にして全く世間普通の醫藥と違ひ內攻、再發、留傷等一切の危險なく如何なる痼疾だも容易に根治するは數千全治者の洽く確認する所にして世既に公評のあるあり豈復自贊を要せんや遠近の患者特に他療にて治癒せざる患者は速に實驗せられよ若藥効なくは藥價を請けず

專科　頑癬治療所

東京神田區錦町一丁目一番地河岸通

注意社告

前金切の節は雜誌の封紙に朱印の半錢形を捺す、之によりて前金を廻送あれ、然らざれば一時發送を見合す。

代金を送らるゝには通運便又は郵便小爲替にて麴町郵便局へ當て御振込被下候樣奉願上候。

發兌

六月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	
七月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
八月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日

定價

一册。六錢　郵税。五厘　（但府內無郵税）
十册。五十八錢郵税。五錢　（同前）
半年分　一圓四十三錢　府外は　一圓五十六錢
一年分　二圓六十十錢　府外は　二圓八十十六錢

廣告

一行　一回　（廿七字詰）　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二・割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

明治二十三年六月六日印刷
明治二十三年六月七日出版

發行所　東京麴町區富士見町二丁目一番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治

印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.56 six month *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1B. FUJIMICHO 2CHYOME, KOJIMACHI, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY